

芝草・土壌通信

今年も暑い夏の到来です。ベントグリーンはストレスを受けて夏バテしますし、コーライ・野芝は伸び放題となります。雑草や害虫の対策も頭の痛いところです。

そんな7月～9月の芝草の管理について芝草の生理生態と土壌の側面から考察してみました。ゴルフ場のコース管理に携わる皆様のご参考にしていただければ幸いです。

【ベント芝の夏越し】

ベント芝のような寒地型の芝は気温が25℃以上になると光合成が極端に衰えます。そのため夏場は光合成で得られる炭水化物よりも呼吸で消費される炭水化物の方が多い状態が続きます。真夏には芝草の生命維持に必要なエネルギーが十分に蓄えられていない状態になるため、ベント芝は衰弱していきます。

これを防ぐために夏に窒素を含んだ肥料を与えるというのは逆効果です。芝草は窒素を吸収するとそれを利用するためエネルギーを消費してしまいます。特に硝酸が芝草の体内でアンモニアに還元される際に大きなエネルギーが消費されてしまいます。しかもエネルギー不足のため硝酸が還元されずに茎葉部に大量に蓄積すると**生理障害**を起こして葉が軟弱になり、赤焼けしたようになって萎れてしまいます。

逆にベント芝に硝酸を吸収させないようにすればエネルギーの浪費や生理障害を抑えることが可能になるということです。

ではどのようにしたら硝酸の吸収を抑えられるかという点ですが、**硝酸化成抑制剤**入りの資材を定期的にグリーンに散布して、硝酸化成菌が硝酸を発生させないようにするのが一番です。

この時、窒素成分が入った資材を使つては意味がありません。鹿沼化成工業の「**ベル**」と「**ニュー・EX**」は窒素成分を含んでいない硝酸化成抑制剤入りの資材ですので、ベント芝の夏越しに最適な資材です。3週間に1回程度散布してください。

【ドライスポット対策】

ドライスポットの予防・治療には完熟堆肥をベースとした土壌改良資材「**鹿沼グリーン SB**」または「**SB ドレッサー**」が最適です。豊富な微生物がサッチ分解を助け、土壌を団粒化し、透水性と保水性を両立させた土壌をつくれます。エアレーション時に砂と混ぜて目土として撒いたり、スポットの出した部分に薄目土として散布したり、ホールカップを埋め戻す際に穴に一握り入れたり目地に擦り込んだりしてお使いください。

また、**ダラスポット**予防のため、グリーン周りにも散布することをおすすめします。

鹿沼化成工業株式会社

URL: www.kanumakk.co.jp

電話でのお問い合わせは

028-625-1250

までよろしく申し上げます

【コーライ芝・野芝】

この時期は旺盛に成長するため施肥が必要ですが、この時期の肥料としては有機質肥料が最も適しています。有機質肥料は化成肥料と比べるとゆっくりと肥効が現れますので芝草が急激に伸びすぎることがなく管理が楽になります。また、有機質肥料は土壌中の有効微生物を増やし肥沃な土壌を作り出しますが、そうになると芝の根がよく育ち、芽の密度が高くなっていきます。そして芝の密度が高くなったところに適宜刈込みがなされると、雑草が生えにくくなっていきます。

鹿沼化成工業の「**ブサン有機**」は上質な有機質を原料として発酵させたボカシ肥料で、生きた微生物と微生物の死骸（つまり**アミノ酸**や**核酸**）を豊富に含んでおりますので、よい土を作り丈夫な芝を育てることができます。